

III 調査結果のあらまし

第 57 回市政に関する世論調査の結果

1. 宇都宮市に対する感じ方について

(1) 宇都宮市の好き・嫌い

「好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた【好き（計）】は9割強であった。一方、「どちらかといえば嫌い」と「嫌い」を合わせた【嫌い（計）】は1割に満たなかった。

(2) 好きな理由

宇都宮市の好きだと思うところについては、「自然災害の少なさ」が4割半ばで最も高く、次いで「買い物など日常生活の便利さ」、「慣れ親しんだところ」、「自然環境の豊かさ」と続いた。

(3) 嫌いな理由

宇都宮市の嫌いだと思うところについては、「交通マナーの悪さ」が約3割で最も高く、次いで「交通渋滞の多さ」、「街に活気がないところ」、「電車やバスなどの交通機関の整備が遅れているところ」と続いた。

2. 広報媒体の活用状況について

(1) 市政情報の各広報媒体の視聴状況

市政情報の各広報媒体の視聴状況については、「よく見る（聞く）」と「ときどき見る（聞く）」を合わせた【見る（聞く）ことがある（計）】は「広報うつのみや」が約8割で最も高く、次いで「宇都宮市ホームページ」、「暮らしの便利帳」と続いた。

(2) 「広報うつのみや」の入手方法

「広報うつのみや」の入手方法については、「新聞折込で自宅に届いている」が5割半ばで最も高かった。一方、「手に入れていない」が2割半ばであった。

(3) 「広報うつのみや」を入手していない理由

「広報うつのみや」を入手していない理由は、「特に必要でないため」が約5割で最も高く、次いで「入手方法を知らないため」が約3割であった。

(4) 「広報うつのみや」で読んでいる主な記事

「広報うつのみや」で読んでいる主な記事については、「市政情報」が5割半ばで最も高く、次いで「うつのみやのイベント」、「特集」、「情報ひろば」と続いた。

(5) 広報うつのみやに関する感想、取り上げてほしい話題・情報

地域活動の情報、イベント情報の更なる充実を求める声が多かった。一方、掲載内容に満足している声や見せ方の工夫を求める声もあった。

(6) 市のホームページを見るための主な手段

市のホームページを見るための主な手段は、「スマートフォン」が4割強で最も高かった。

(7) ホームページで知りたい情報はどこから探すか

ホームページで知りたい情報はどこから探すかについては、「大分類（暮らし・手続き、子育て・教育など）」が5割強で最も高かった。

(8) ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいか

ホームページを利用して知りたい情報は探しやすいかについては、「探しやすい」と「どちらかといえば探しやすい」を合わせた【探しやすい(計)】が6割半ばであった。一方、「どちらかといえば探しにくい」と「探しにくい」を合わせた【探しにくい(計)】は2割半ばであった。

(9) ホームページに関する感想、充実してほしい機能や情報

市政に関する情報、地域のイベント情報、災害時や緊急時等の情報の充実やカテゴリー分け等による情報検索のしやすさを求める声が多かった。

(10) 市政情報をどんな手段で知りたいか

市政情報をどんな手段で知りたいかについては、「広報うつのみや」が6割弱であった。

3. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度の認知度については、「名前を聞いたことはあるが、制度の内容までは知らない」が4割強であった。

4. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」の認知度

「生物多様性」の認知度については、「言葉も意味も知っていた」が4割弱であった。

(2) 外来種が及ぼす影響の認知度

外来種が及ぼす影響の認知度については、「知っていた」が9割弱であった。

5. 宇都宮産の農産物について

(1) 宇都宮産の農産物の購入意欲

宇都宮産の農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が8割強であった。

(2) 宇都宮の農業を大切にしたいと思うか

宇都宮の農業を大切にしたいと思うかについては、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割であった。

(3) 環境に配慮して生産された農産物の購入意欲

環境に配慮して生産された農産物の購入意欲については、「非常にそう思う」と「そう思う」を合わせた【そう思う(計)】が8割半ばであった。

6. カーボンニュートラル（脱炭素）について

(1) カーボンニュートラルの認知度

カーボンニュートラルの認知度については、「言葉の意味も含めて知っている」が5割強であった。

(2) カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うか

カーボンニュートラルの実現に向けた取組は必要だと思うかについては、「必要だと思う」と「どちらかといえば必要だと思う」を合わせた【必要だと思う（計）】が約9割であった。

(3) カーボンニュートラルにつながる行動について

カーボンニュートラルにつながる行動については、「実践している」は『LED照明の使用』が7割強で最も高く、次いで『運転の際のエコドライブ』、『給湯空調設備や電化製品は、省エネ性能の高いものを使用』と続いた。

(4) ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度

ライトラインが再生可能エネルギー100%で走行していることの認知度については、「知らない（今回の調査で初めて認識）」が6割半ばであった。

7. 水災害（洪水など）への備えについて

(1) ハザードマップの存在の認知度

ハザードマップの存在の認知度については、「知っており、内容を確認している」が5割弱であった。

(2) 住んでいる建物（住宅）は、洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外か

住んでいる建物（住宅）は、「ハザードマップ」で示す洪水浸水想定区域内、または洪水浸水想定区域外のどちらに立地しているかについては、「洪水浸水想定区域外に立地している」が6割弱であった。

(3) 水災害への備えに取り組んでいるか

水災害（洪水など）に対し、あらかじめ備えに取り組んでいるかについては、「災害時の避難場所の確認」が5割強で最も高く、次いで「備蓄品・非常用持出品の準備（飲料水・食料品、生活用品、衣類など）」が約5割であった。

8. 雨水貯留・浸透施設の補助金制度について

(1) 「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度

「貯留タンク（雨どいから雨水を貯めるタンク）」や「浸透ます（雨水を地下にしみ込ませるもの）」の認知度については、「知っている」が約4割であった。

(2) 貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度

貯留タンクや浸透ますなどの設置に対する補助金制度の認知度については、「知らない」が約7割であった。

(3) 貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度

貯留タンクや浸透ますなどの設置効果についての認知度については、「知らない」が約6割であった。

(4) 貯留タンクや浸透ますを設置したいと思うか

貯留タンクや浸透ますなどを設置したいと思うかについては、「わからない」が6割弱であった。

(5) 設置希望・既設置の理由

設置希望・既設置の理由については、「雨水を庭木の水やりに利用するため」が5割半ばで最も高く、次いで「水の節約になるため」が5割弱であった。

(6) 設置したくない理由

設置したくない理由については、「敷地に設置できる場所がないため」、「設置後の維持管理に手間がかかりそうであるため」がいずれも4割強であった。

9. 「宮っこを守り・育てる都市宣言」について

(1) 「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度

「宮っこを守り・育てる都市宣言」の認知度については、「名称も内容も知らない」が5割半ばであった。

10. まちづくり活動への参加意識について

(1) 参加中または興味があるまちづくり活動

参加中または興味があるまちづくり活動については、「スポーツ・文化・芸術の普及啓発等に関する活動」が2割半ばで最も高く、次いで「高齢者・障がい者等を対象とした社会福祉に関する活動」が2割強であった。

(2) まちづくり活動に参加していない理由

まちづくり活動に参加していない理由については、「参加するチャンス・きっかけがない」が4割半ばで最も高く、次いで「どのように参加すればいいかわからない」が約2割であった。

11. 公共交通の運賃負担軽減策等について

(1) 普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度

普段の公共交通（ライトライン・バス・地域内交通）の利用頻度については、「ほとんど利用しない」が7割強であった。

(2) 交通系 IC カード「totra」の認知度

交通系 IC カード「totra」の認知度については、「知っている」が約7割であった。

(3) 交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」の認知度

交通系 IC カードを利用した「バスの上限運賃制度」の認知度については、「知らない」が7割強であった。

(4) 「totra」を利用した「乗継割引制度」の認知度

「totra」を利用した「乗継割引制度」の認知度については、「知らない」が7割強であった。

1 2. スポーツに関することについて

(1) 大規模スポーツイベント開催の認知度

大規模スポーツイベント開催の認知度については、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム」、「宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース ロードレース」が6割半ばであった。

(2) 大規模スポーツイベントの会場観戦があるか

大規模スポーツイベント会場観戦があるかについては、「会場で観戦がある」は『宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース クリテリウム』が3割弱で最も高く、次いで『宇都宮ジャパンカップサイクルロードレース ロードレース』と『FIBA 3x3 ワールドツアー宇都宮オープナー』が2割弱であった。また『宇都宮シクロクロス』は約1割であった。

(3) スポーツイベントを観戦するための要素

スポーツイベントを観戦するための要素については、「駐車場など充実した交通環境」が約6割で最も高く、次いで「音楽や食を楽しめる」が2割半ばであった。

(4) スポーツに関する指導を行ってみたいか

スポーツに関する指導を行ってみたいかについては、「行いたくない」が6割強であった。

(5) アーバンスポーツに関心があるか

アーバンスポーツに関心があるかについては、「まったく関心がない」が約5割であった。

1 3. 自転車のまちづくりについて

(1) 自転車を使いやすいまちだと思うか

自転車を使いやすいまちだと思うかについては、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が2割半ばであった。一方、「そうは思わない」と「あまりそう思わない」を合わせた【そう思わない(計)】が4割強であった。

(2) 魅力ある「自転車のまち」を推奨していく上で必要な取組

魅力ある「自転車のまち」に推奨していく上で必要な取組については、「安全に日常使いできる自転車走行空間(矢羽根, 自転車レーンなど)が整備されている」が5割強で最も高く、次いで「自転車に関する交通ルールやマナーが定着している」が約3割であった。

1 4. 中心市街地の活性化について

(1) 中心市街地に住みたいと思うか

中心市街地に住みたいと思うかについては、「住むことは考えていない」が約6割であった。

(2) 中心市街地に出かける頻度

中心市街地に出かける頻度については、「月1~2回程度」が3割半ばであった。

(3) 中心市街地へ出かける目的

中心市街地へ出かける目的については、「買い物」が7割弱で最も高く、次いで「飲食」が3割半ばであった。

(4) 街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるか

街なかがどう変化すれば中心市街地へ出かけたくなるかについては、「もっと楽しめる場所がほしい」が2割強で最も高く、次いで「もっとアクセスしやすくなってほしい」が2割であった。

15. 焼却ごみ削減の取組について

(1) 焼却ごみ削減のため実施した取組

焼却ごみ削減のため実施した取組については、「プラスチック製容器包装（お弁当の容器等）の分別を徹底している」が8割弱で最も高く、次いで「資源化できる紙（お菓子の箱等）の分別を徹底している」が6割強であった。

(2) 焼却ごみ削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組

焼却ごみ削減や資源物の分別の周知方法として有効な取組については、「広報紙」が約5割で最も高く、次いで「自治会の回覧板」が4割半ばであった。

16. 自治会について

(1) 自治会に加入しているか

自治会に加入しているかについては、「加入している」が7割半ばであった。

(2) 加入したきっかけ

加入したきっかけについては、「昔から入っていてきっかけはない」が5割強で最も高く、次いで「自らの申込み」が3割半ばであった。

(3) 加入したことがない理由

加入したことがない理由については、「加入を勧められていない」が約4割で最も高く、次いで「単身である」が約3割であった。

(4) 退会した理由

退会した理由については、「役員や当番が負担である」が5割弱で最も高く、次いで「(高齢などにより) 会合や清掃などの自治会活動への参加が困難」が3割強であった。

(5) 住みよい暮らしのための今後の自治会活動

住みよい暮らしのための今後の自治会活動については、「自治会の活動を見直し(削減し)、自分たちの可能な範囲で活動する」が約5割であった。

(6) 特にどのような活動に力をいれていくべきか

特にどのような活動に力をいれていくべきかについては、「ごみステーションの設置・維持管理や清掃などの環境美化活動」、「高齢者・障がい者等の見守りなどの福祉活動」、「防犯灯の設置、防犯パトロールの実施などの防犯活動」がいずれも3割半ばであった。

(7) 住まいについて

住まいについては、「一戸建て」が8割半ばであった。

17. 良好な生活環境の確保に係る市民満足度について

(1) 環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策の満足度

環境負荷の低減が図られた良好な生活環境の確保に向けた施策に満足しているかについては、「満足」と「やや満足」を合わせた【満足(計)】が5割半ばであった。一方、「不満」と「やや不満」を合わせた【不満(計)】は約1割であった。

18. 保健と福祉のまるごと相談窓口エールUについて

(1) 保健と福祉のまるごと相談窓口エールUの認知度

保健と福祉のまるごと相談窓口エールUの認知度については、「知らない」が9割半ばであった。

(2) エールUの設置場所の認知度

エールU設置場所の認知度については、「知らない」が9割半ばであった。

(3) エールUがどのような相談窓口かの認知度

エールUがどのような相談窓口かの認知度については、「知らない」が9割半ばであった。

19. 健康づくりについて

(1) 主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度

主食・主菜・副菜をそろえて食べることの頻度については、「ほぼ毎日」が5割半ばであった。

(2) がん検診を受診する間隔

がん検診を受診する間隔については、「毎年受診している」、「受診していない」がいずれも3割半ばであった。

(3) 直近のがん検診の受診先

直近のがん検診の受診先については、「市の受診券を利用して受ける個別検診（医療機関で実施している検診）」が3割弱であった。

(4) 歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるか

歯と口の健康に関する治療や相談ができるかかりつけの歯科医院はあるかについては、「ある」が8割弱であった。

20. 結婚・出産・子育てに関する意識について

(1) 結婚しているか

結婚しているかについては、「結婚している」が6割強であった。

(2) 結婚するつもりがあるか

結婚するつもりがあるかについては、「結婚するつもりはない」が約7割であった。

(3) 結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいか

結婚している場合、全部で何人のお子さんを持ちたいかについては、「2人」が5割強であった。

(4) 結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいか

結婚を予定している場合、子どもは何人ほしいかについては、「2人」が約5割であった。

2 1. 「SDG s (エス・ディー・ジーズ)」について

(1) SDG s についての認知度

SDG s についての認知度については、「SDG s について内容をある程度知っているが、達成に向けた取組は実践していない」が約3割であった。

(2) SDG s につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるもの

SDG s につながる行動の中で、日頃から取り組んでいるものについては、「買い物をするときはマイバッグを使っている」、「水をだしっぱなしにしないようにしている」が約7割であった。

(3) SDG s のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野

SDG s のゴールの中で、積極的に取り組みたい分野については、「すべての人に健康と福祉を」が4割半ばであった。

2 2. 生涯学習について

(1) 現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているか

現在、生涯学習として学習、文化・スポーツ（運動）活動をしているかについては、「していない」が6割弱であった。

2 3. 火葬により生じる残骨灰の取り扱いについて

(1) 残骨灰の中に金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることについての認知度

残骨灰の中に金・銀・パラジウムなどの有価物が含まれる場合があることについては、「知らなかった」が4割強であった。

(2) 残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることについての認知度

残骨灰に含まれる有価物を売却し、その収入を火葬場などの財源に充てている自治体があることについては、「知らなかった」が8割強であった。

(3) 残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることについてどう思うか

残骨灰に含まれる有価物を市が売却し、その収入を火葬場などの財源に充てることをどう思うかについては、「賛成」と「どちらかという賛成」を合わせた【賛成（計）】が8割弱であった。

2 4. 地域共生社会について

(1) 地域共生社会の認知度

地域共生社会の認知度については、「意味は知らないが、言葉は聞いたことがある」が4割強であった。

(2) どのようにして地域共生社会を知ったか

どのようにして地域共生社会を知ったかについては、「広報紙」が約3割であった。

25. 「大谷石文化」の日本遺産認定について

(1) 「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことの認知度

「大谷石文化」が日本遺産に認定されたことに関する認知度については、「知っている」、「知らない」がいずれも約5割であった。

(2) 「大谷石文化」を誇りに感じるか

「大谷石文化」を誇りに感じるかについては、「感じる」と「やや感じる」を合わせた【感じる(計)】が約7割であった。一方、「感じない」と「あまり感じない」を合わせた【感じない(計)】は約2割であった。

26. 選挙の投票率向上に向けた取組について

(1) 最近の選挙について投票に行っているか

最近の選挙について投票に行っているかについては、「毎回行っている」が4割強であった。

(2) 最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているか

最近の選挙についてどのような方法で選挙の有無を認知しているかについては、「テレビやニュース」が7割弱であった。

(3) 昨年4月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由

昨年4月に執行した宇都宮市議会議員選挙の低投票率の理由については、「皆が選挙に行っても何も変わらないと感じているから」が5割半ばであった。

(4) 投票環境の充実を図るために必要な取組

投票環境の充実を図るために必要な取組については、「候補者や政党の情報を増やす」が4割弱であった。

27. 「もったいない運動」について

(1) 「もったいない運動」の認知度

「もったいない運動」の認知度については、「内容を知っており、実践している」が3割弱、「内容を知っているが、実践はしていない」が2割弱であった。

(2) 「もったいない運動」を知った経緯

「もったいない運動」を知った経緯については、「今回の調査で初めて知った」が約5割で最も高く、次いで「広報紙」が約2割であった。

(3) 日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」

日常生活の中で取り組んでいる「もったいない運動」については、「ごみの減量に向けた行動(マイバッグ、マイボトル、マイ箸の使用等)」が約6割であった。

28. 男女共同参画について

(1) 家事・育児・介護それぞれに費やした時間

家事・育児・介護それぞれに費やした時間については、家事は、「7時間以上21時間未満」が4割半ばであった。育児は、「対象者なし」を除く「7時間以上21時間未満」が1割弱。介護は、「対象者なし」を除く「0時間以上7時間未満」が1割弱であった。

(2) 社会的な活動の実施状況

社会的な活動の実施状況については、「特になし」が6割半ばで最も高く、次いで「自治会やまちづくりなどの地域活動」が約2割であった。

(3) 配偶者からの暴力を受けた経験

過去1年間に配偶者から暴力を受けたことがあるかについては、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた【経験あり(計)】の割合は、「精神的な暴力」が1割に満たなかった。

(4) LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度

LGBTQ(エルジービーティーキュー)の認知度については、「言葉も内容も知っている」が5割弱であった。

29. 防犯・交通安全に関する意識・状況について

(1) 安心して暮らすことができているか

安心して暮らすことができているかについては、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた【そう思う(計)】が約9割であった。

(2) 自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況

自転車乗車用のヘルメットの所持および着用状況については、「普段自転車を利用しておらず保有もしていない」が約7割であった。

(3) 自転車保険の加入状況

自転車保険の加入状況については、「普段自転車を利用しておらず、自転車乗用中に事故を起こしたとき、相手方への賠償を補償する保険には加入していない」が5割半ばであった。

30. デジタル化について

(1) デジタル機器の所有状況

デジタル機器の所有状況については、「スマートフォン」が8割強であった。

(2) インターネットを利用しているか

インターネットを利用しているかについては、「利用している」が7割強であった。

(3) インターネットを利用しない理由

インターネットを利用しない理由については、「機器の操作方法等がわからない」が約6割であった。